

## 各学科及び一般教育の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 【建築・生活デザイン学科】

建築・生活デザイン学科の「教育研究上の目的」及び「教育目標」を達成するため、「建築デザイン（4ユニット 12科目）」、「建築エンジニアリング（5ユニット 20科目）」、「生活デザイン（3ユニット 11科目）」の3専門分野を設置している。各専門分野に開設された47の専門教育科目は、12のユニット群及び共通プログラム（4科目）にまとめられている。

- ① 1年前学期では、建築・生活デザインに関する基礎知識を修得させるとともに、自らの興味の観点と学びの進路を動機付けるために、学科共通プログラムとして包括的な専門教育科目を開設する。
- ② 1年後学期からは、上記3専門分野から学びの中心となる主専攻分野を選択し、就職や進学、資格取得の希望などそれぞれの目標や志望に合わせて、主専攻分野の専門教育科目を中心に主体的な履修科目の選択が可能となっている。
- ③ 専門教育科目「キャリア・職業教育部門」を開設することにより、将来の職業選択についてのヒントを与えるとともに、資格取得へのサポートを行う。
- ④ 必修科目として、2年間を通じてゼミナール形式の授業科目を開設することにより、専門的知識の修得とともに、自ら考え、コミュニケーションを図る能力を養成する。

### 【ものづくり・サイエンス総合学科】

ものづくり・サイエンス総合学科の「教育研究上の目的」及び「教育目標」を達成するため、「機械」、「電気電子」、「情報」、「物理学」、「数学」と多岐にわたる学問分野を擁する学科であることを踏まえ、多様な学生の志向や進路に対応する教育課程を編成する。

- ① 1年前学期は、学生の多様な志向や進路に対応するため、全専門分野共通の学問的基盤となる専門教育科目「共通基礎教育部門」を集中的に配置することにより、基礎学力を養成する。
- ② あわせて、進路選択のための「短大入門講座」及び「入門ゼミナール」を開設することにより、理工学と社会の多面的な関係を横断的に理解し、自己の進路決定の一助とするとともに、理工学全般に共通するものの考え方やスキルを養成する。
- ③ 1年後学期以降に、「機械」、「電気電子」、「情報」、「物理学」、「数学」の分野別専門教育科目を開設し、専門分野別の基礎知識やものの考え方を修得させるとともに、実験・実習・演習科目を通じて技能・応用面での実力を養い、得られたデータ等を的確に分析・評価し、考察する能力を養成する。
- ④ 基礎学力を確保するとともに、専門性の高い科目を理解するための橋渡しとして、補充教育科目を開設する。

- ⑤ ゼミナール系の科目は、1年前学期の「入門ゼミナール」に続き、1年後学期「基礎ゼミナール」、2年前学期「発展ゼミナール」、2年後学期「卒業研究」を開設し、少人数での教育・指導を通じて、専門的な知識や考え方に加えて、小集団の中でのパーソナリティやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。
- ⑥ 専門教育科目「キャリア・職業教育部門」の中にキャリア・職業教育のための科目を開設し、資格や免許の取得を志す学生に対応するとともに、卒業後に社会の一員として貢献すべく、社会活動やコミュニケーションに必要な能力を身に付けるための科目を開設する。

### 【生命・物質化学科】

生命・物質化学科の「教育研究上の目的」及び「教育目標」を達成するため、以下の科目群を開設する。

- ① 基礎学力の向上のため、補充教育科目を開設する。
- ② 基礎的な化学の知識及び考え方を修得させるために、概論4科目を開設する。
- ③ 理工学と社会の多面的な関係の理解、学習意欲の向上及びキャリア意識付けのために、「短大入門講座」、「入門ゼミナール」及び「基礎ゼミナール」をそれぞれ1年前学期及び後学期に開設する。
- ④ 生命を構成している物質や生命活動に関わる反応を理解するための基本的な知識、及び無機・有機物質や化学プロセスに関する実践的な知識を修得させるとともに、積極的かつ実践的に応用するために必要な専門教育科目を開設する。
- ⑤ 総合教育科目と専門教育科目の知識を統合し、自主的かつ創造的に種々の問題を解決する強い意志と能力を持つ学生を育成するため、「発展ゼミナール」及び「卒業研究」をそれぞれ2年前学期及び後学期に開設する。

### 【一般教育（3学科共通）】

一般教育の目的・教育目標を達成するため、「総合教育科目」、「専門教育科目（共通基礎教育部門）」、「補充教育科目」に授業科目を区分し、総合教育科目については「教養教育部門」及び「言語教育部門」を開設する。

- ① 総合教育科目「教養教育部門」では、理系・文系の学問領域にとらわれない総合的な知識及び文化・社会・自然との関わりについて教授するとともに、論理的な思考力及び表現力を養成する一助となるよう、広範な分野の科目を開設する。
- ② あわせて、健康的な社会生活を送るのに必要な基礎を教育・指導するため、スポーツ系科目を開設する。教養教育部門の科目は、必要な科目を自由に選択できるように1・2学年共通に開設する。
- ③ 総合教育科目「言語教育部門」では、学修や職業生活、社会生活を支える日本語、並びに異文化コミュニケーションツールとしての英語及び中国語での表現力を養成するための科目を開設する。必要に応じて習熟度別クラス編成を行い、1

年前学期から段階的に学修を進められるように各科目を配置する。

- ④ 専門教育科目「共通基礎教育部門」では、理工系専門教育科目を学ぶ上で基盤となる数学・物理学などの基礎科目を開設する。習熟度別クラス編成を行い、補充教育科目と連動した体系的な基礎教育を行う。基幹科目については、講義科目だけでなく、演習科目・実験科目も併せて開設する。
- ⑤ 各学科の学問分野の特性に応じて、1年前学期を前半期・後半期に分割し、週2回の授業を行うこと（4学期制）により、前学期終了までに必要な知識・技能が修得できるよう配慮する。
- ⑥ 補充教育科目では、数学・物理学を中心として専門教育科目「共通基礎教育部門」の学修を補うための科目を開設する。1年前学期を中心に、習熟度不十分な学生を対象とする、いわゆる「底上げ教育」のための科目を開設する。1年後学期からは、習熟度の高い学生を対象とする「引上げ教育」のための科目を併せて開設する。